資料３

やまなし森林整備･林業成長産業化推進プランの進捗状況について

県土面積の７８％を占める本県の森林は、県民の生活に密接に関連した貴重な資源であり、将来にわたり良好な状態に保ち、多方面にわたり有効に活用していく必要があるため、令和２年３月に「やまなし森林整備・林業成長産業化推進プラン」を策定し、プランが目指す将来像の実現に向けて具体的な施策を展開しているところです。

こうしたプランの実効性を確保するため、基本方針ごとにそれぞれ数値目標（全１１項目）を掲げ、毎年度、目標実現に向けた施策の進捗状況や効果等について点検、評価を行うこととしています。

○ 数値目標の進捗状況

令和４年度末時点における各項目の進捗状況を集計した結果は、次のとおりです。（目標年次：令和１１年度）

項目	年度目標（R4）	実績値（R4）	進捗
1　森林整備の実施面積（年間）	6,400ha	6,625ha	104%
2　山地災害危険地区対策地区数（累計）	2,384 地区	2,385 地区	100%
3　長寿命化対策済の施設数（累計）	304 箇所	304 箇所	100%
4　森林公園、森林文化の森、清里の森の利用者数（年間）	787 千人	591 千人	75%
5　木材生産量（年間）	272 千 m3	236 千 m3	87%
6　製材用途の木材生産量（年間）	32 千 m3	23 千 m3	72%
7　木材製品出荷量（年間）	54 千 m3	48 千 m3	89%
8　林内路網の整備延長（累計）	4,778km	4,783km	100%
9　木質バイオマス燃料用木材供給量（年間）	109 千 m3	88 千 m3	81%
10 林業の新規就業者数（年間）	50 人	34 人	68%
11 クロアワビタケの生産量（年間）	4.00t	1.32t	33%

このうち､｢森林整備の実施面積｣など４指標は､１００％を上回る実績があった一方、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、利用者数が減少した「森林公園、森林文化の森、清里の森の利用者数」、発生期の高温障害の影響で生産量が低下し、目標の収量に達しなかった「クロアワビタケの生産量」など、７項目が未達成となりました。

年度目標未達成の項目については、目標実績を達成できるよう、対応策を検討のうえ取り組んで参ります。

【やまなし森林整備・林業成長産業化推進プラン】進捗状況について（令和４年度末　プラン４年目）

施策	項目	指標	基準値（H30）	目標値（R11）	R4年度進捗状況 年度目標 A	R4年度進捗状況 実績値 B	R4年度進捗状況 進捗（%）(B/A)×100	※1 達成状況（目標の達成）	進捗状況や効果等に係るコメント	今後の対応	担当課
森林の公益的機能の強化	1　森林整備の推進 森林の保全	①森林整備の実施面積（年間）	6,124ha/年	7,300ha/年	6,400ha/年	6,625ha/年	104%	達成	主伐後の再造林や保育、及び森林病害虫対策等に精力的に取り組んだ結果、目標を上回る進捗となった。	造林補助事業等により森林所有者を支援するとともに、林業経営体等と連携して着実な森林整備を進め、引き続き目標達成に向け取り組んでいく。	森林整備課
	2　治山施設等の整備	②山地災害危険地区対策地区数（累計）	2,322地区	2,492地区	2,384地区	2,385地区	100%	達成	16地区（累計2,385地区）の山地災害危険地区について新たに着手し、目標どおりの進捗となった。	山梨県強靱化計画の推進方針に基づき、治山施設が未整備な山地災害危険地区において、計画的な施設整備に取り組み、土砂災害対策を推進する。	治山林道課
		③長寿命化対策済の施設数（累計）	232箇所	388箇所	304箇所	304箇所	100%	達成	１７箇所（累計304箇所）の治山林道施設について長寿命化が図られ、目標どおりの進捗となった。	山梨県治山施設保全計画及び施設点検結果、並びに山梨県県営林道長寿命化計画に基づき、集落周辺の治山施設や林道の橋梁・トンネルなどの長寿命化を計画的に実施する。	治山林道課
	3　森林空間の利活用	④森林公園、森林文化の森、清里の森の利用者数（年間）	713千人/年	917千人/年	787千人/年	591千人/年	75%	未達成	施設の利用制限や外出機会の減少など、長引く新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことにより、利用者数が伸びず、年度目標の達成には至らなかった。	令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行したことを受け、MTBや森林セラピーなど、アフターコロナを見据えた新たなプログラムを提供することで、森林公園の魅力向上と利用者の増加を図る。	県有林課
林業の成長産業化の推進	4　県産材供給体制の強化	⑤木材生産量（年間）	201千m3/年	335千m3/年	272千m3/年	236千m3/年	87%	未達成	前年と比べ、チップ用等については増加したものの製材用が落ち込み、年度目標の達成には至らなかった。	森林資源が充実している地域への重点的な路網の整備や高性能林業機械の導入支援などにより、低コストで効率的な木材生産を進め、生産量の増加を図る。	林業振興課
		⑥製材用途の木材生産量（年間）	24千m3/年	77千m3/年	32千m3/年	23千m3/年	72%	未達成	物価高騰等の影響を受け、令和4年度は住宅着工数が伸びず、それに応じて製材需要も減少したため、年度目標の達成には至らなかった。	引き続き、県産材サプライチェーンの構築を支援し県産製材品を安定的に供給する体制を強化し、目標の達成を目指す。	林業振興課
	5　県産材需要拡大の推進	⑦木材製品出荷量（年間）	15千m3/年	98千m3/年	54千m3/年	48千m3/年	89%	未達成	物価高騰等の影響を受け、令和4年度は住宅着工数が伸びず、木材製品出荷量は合板、製材ともにほぼ横ばいで、年度目標の達成には至らなかった。	県と商工団体等で構成するYamanashiウッド･チェンジ・ネットワークを活用し、店舗・事務所等の民間建築物の木造･木質化を進めることにより県産材の需要拡大を図り、目標の達成を目指す。	林業振興課
	6　林内路網整備の推進	⑧林内路網の整備延長（累計）	4,598km	5,093km	4,778km	4,783km	100%	達成	56km（累計4,783km）の林道・森林作業道を整備し、目標どおりの進捗となった。	山梨県林内路網整備計画に基づき、林道及び森林作業道の整備を推進する。	治山林道課
	7　木質バイオマスの利活用の推進	⑨木質バイオマス燃料用木材供給量（年間）	38千m3/年	122千m3/年	109千m3/年	88千m3/年	81%	未達成	県内木質バイオマス発電施設の稼働が計画より遅れたこともあり、チップ需要が増えなかったため、年度目標の達成には至らなかった。	林地に残置されている未利用材の有効活用を進めるための支援を継続して行うとともに、チップ加工施設の整備や木質バイオマスボイラー導入の促進に取り組むことにより、目標の達成を目指す。	林業振興課
	8　林業の担い手の確保・育成	⑩林業の新規就業者数（年間）	41人/年	57人/年	50人/年	34人/年	68%	未達成	林業の魅力について、体験ツアーやインターンシップ、就職ガイダンスなどを通じて情報発信を行ってきたが、他産業の求人が増加する中、新規就業者の増加に繋がらず、年度目標の達成には至らなかった。	林業を魅力あるものとするため、月給制雇用への奨励金や労災保険の上乗せ補償への助成など、林業経営体による労働環境の改善に向けた取り組みを支援するとともに、令和４年度に開講した農林大学校森林学科において、知識と技術を身につけた林業の現場で即戦力となる人材を育成することにより、目標の達成を目指す。	林業振興課
	9　特用林産物の産地化の推進	⑪クロアワビタケの生産量（年間）	0.32ｔ/年	7.00ｔ/年	4.00ｔ/年	1.32ｔ/年	33%	未達成	クロアワビタケの発生が始まる６月下旬以降に気温が高い日が続き、高温障害が発生したため、生産量が低下し、年度目標の達成には至らなかった。	生産者への栽培指導や、種菌・菌床の供給体制を調えることで生産者を支援し、生産量の増加を目指す。	林業振興課

※1　達成状況（目標の達成）は、１００%以上が「達成」、１００%未満を「未達成」に評価。

やまなし森林整備・林業成長産業化推進プラン（令和４年１月改定） の概要

趣旨及び計画期間

・令和元年の森林経営管理法の施行や森林環境譲与税の譲与開始など、森林・林業行政は大きな転換期を迎えている。
・戦後や高度経済成長期に造成された人工林の多くが、木材として利用可能な時期を迎えている中、県内での大型バイオマス発電所や大型合板工場が稼働するなど、県産木材の需要が高まっている。
・こうした情勢の変化に対応するため、「山梨県総合計画」の部門計画として森林・林業・木材産業行政の指針となる新たなプランを策定
・ウィズコロナ・ポストコロナ社会の行政需要への対応を目的に令和3年7月に一部改定した「山梨県総合計画」内容を反映し、プランを一部改定
・計画期間：R2～R11（10年間）

目指す方向及び基本方針

Ⅰ　森林の公益的機能の強化

・安心、安全の確保や豊かな県民生活を支えている森林の持つ地球温暖化の防止や山地災害の防止、水源涵養（かんよう）、保健休養等の公益的機能を強化

Ⅱ　林業の成長産業化の推進

・本格的な利用期を迎えた人工林資源を活用した林業の成長産業化を進めるため、「伐る、使う、植える、育てる」といった、森林資源を循環利用する取り組みを推進

現状と課題

Ⅰ　森林の公益的機能の強化

○現状
- 県民は森林の公益的機能の発揮に特に期待
- 手入れ不足の人工林が依然として多く存在
- 松くい虫やナラ枯れ、野生鳥獣による被害が深刻
- 全国的に豪雨災害が頻発・激甚化
- 森林空間の様々な活用への期待の高まり

○課題
- 手入れ不足の人工林の整備が必要
- 松くい虫や野生鳥獣対策等、森林の保全が必要
- 治山施設の整備等、山地災害対策の強化が必要
- インフラ施設周辺の倒木被害の未然防止が必要
- 森林空間の新たな利活用の推進が必要

Ⅱ　林業の成長産業化の推進

○現状
- 充実した森林資源の本格的な利用期
- 森林の所有構造は小規模零細
- 木材生産量の約８割がチップ用途（全国は約２割）、製材用途は約１割（全国は約６割）
- 木材の生産性が低位
- 林業就業者数の長期的な減少傾向・高齢化
- 特用林産物の生産量が減少

○課題
- 森林施業の生産性向上や付加価値の高い製材品の加工・流通体制の整備などが必要
- 県産材の需要拡大が必要
- 林内路網の整備が必要
- 未利用間伐材等、資源の有効活用が必要
- 林業の担い手の確保・育成が必要
- 特用林産物の生産の促進が必要

施策の展開方向

Ⅰ　森林の公益的機能の強化

1　森林の整備
森林環境税等を活用した間伐等荒廃人工林の整備や、企業・団体等による森林整備への支援

2　森林の保全
保安林の整備・管理や病害虫対策の推進、鳥獣被害の防止、林地保全対策、重要インフラ施設周辺樹木の事前伐採の推進

3　防災・減災のための治山施設整備等の推進
治山施設の計画的な整備や治山・林道施設の長寿命化の推進

4　森林空間の利活用
森林の保健休養機能の活用や美しい森林景観づくりの推進、森林を活用したサービス産業の促進、森林環境教育の推進

Ⅱ　林業の成長産業化の推進

1　県産材供給体制の強化
再造林に必要な苗木生産力の強化、主伐後の再造林や間伐等による森林の整備、森林施業の生産性向上、林業・木材産業関連事業者によるサプライチェーンの構築、品質の確かな製品の加工・供給体制の整備

2　県産材の需要拡大
公共や民間建築物等への木材の利用促進、人と環境にやさしい多様な県産材製品の開発、東京圏への販路拡大や海外輸出の促進、県産ＦＳＣ認証材のブランド化、県産広葉樹材の利用促進、県産木材利用の普及啓発

3　林内路網整備の推進
計画的な林内路網の配置や生産基盤強化区域の設定

4　木質バイオマスの利活用の推進
木質バイオマス利用施設等や未利用間伐材等の供給体制の整備

5　林業の担い手の確保・育成
林業の魅力発信等による新規就業者の確保や、意欲と能力のある林業経営体の育成、農林大学校への森林学科の設置

6　特用林産物の産地化の推進
きのこ・薬用植物の栽培技術の確立や販路拡大・生産者の確保・育成

数値目標

森林整備の実施面積（年間）	6,124ha→7,300ha
山地災害危険地区対策地区数（累計）	2,322地区→2,492地区
長寿命化対策済の施設数（累計）	232箇所→388箇所
森林公園、森林文化の森、清里の森の利用者数（年間）	713千人→917千人
木材生産量（年間）	201千㎥→335千㎥
製材用途の木材生産量（年間）	24千㎥→77千㎥
木材製品出荷量（年間）	15千㎥→98千㎥
林内路網の整備延長（累計）	4,598km→5,093km
木質バイオマス燃料用木材供給量（年間）	38千㎥→122千㎥
林業の新規就業者数（年間）	41人→57人
クロアワビタケの生産量（年間）	0.32t→7.00t

やまなし森林整備･林業成長産業化推進プランの数値目標の一部見直しについて

新たな山梨県総合計画の策定に伴い、関連施策に係る成果指標について見直しを行いました。その中で、本プランにおいても指標としている以下の2項目が見直しとなったため、それに合わせて本プランの指標についても見直しを行います。

〇見直しの内容

現行				変更				
指標	指標の考え方	基準値（H30）	目標値（R11）	指標	見直しの内容	現況値（R4）	目標値（R11）	見直しの理由
4 森林公園、森林文化の森、清里の森の利用者数（年間）	森林空間を利活用した施設である森林公園等の利用者数	713千人	917千人	4 森林公園、清里の森の利用者数（年間）	〇森林文化の森の利用者数を指標から外す 〇各森林公園、及び清里の森の実施計画書に基づき、4箇所の合計で毎年18,840人を増加させることを目標とする。	475千人	607千人	〇森林文化の森では利用者数をカウントしていないため、観光文化スポーツ部の「観光入込客統計調査報告書」の結果から推計した値を利用者数として集計しているが、あくまで推計値であり、正確な値ではない。 〇このため、森林文化の森は対象から外し、利用者数を正確に把握している武田の森、金川の森、県民の森、及び清里の森の4箇所の利用者数を指標とするよう見直しを行う。
11 クロアワビタケの生産量（年間）	山梨オリジナルの特用林産物として産地化を推進している「山梨夏っ子きのこ（クロアワビタケ）」の生産量	0.32t	7.00t	11 きのこ類の生産量（年間）	〇クロアワビタケを含めた「きのこ類全般」の生産量を指標とする。 〇R14年度までの10年間に64t（毎年6.4t）を増産させることを目標とする。 ※64t：各事業者の増産目標値の合計	382t	427t	〇本県の特用林産物の生産量は、生産者の高齢化等の影響で長年減少傾向にあり、特に県内で最も生産量の多い生しいたけについては、ピーク時の昭和56年度には1,639tであったが、平成27年度には135tにまで落ち込み、その後徐々に回復傾向にあるものの、令和4年度は208tに留まっている。 〇こうした中、現行プランでは新品種の「クロアワビタケ」の生産に重点的に取り組むこととし、その生産量を指標としている。 〇一方、近年栽培技術が確立され、全国的に生産量が伸びているハタケシメジやタモギタケなどの品種について、県内でも栽培を計画･実施している事業者が見られるなど、きのこ栽培について活性化の兆しが見られる。 〇こうした背景から、今後はクロアワビタケを含めた「きのこ類全般」について生産振興を図るべく指標を変更し、生産量の増加に向けた取り組みを強化していく。